

院長就任に寄せて

〈菅沼病院 病院長〉 菅沼 孝紀



令和2年5月1日から先代院長菅沼哲夫の後任として、医療法人山力会菅沼病院の院長に就任しました菅沼孝紀でございます。この場をお借りしまして、皆様にご挨拶申し上げます。先代院長が長野県医師会の理事をしていたようです。私自身は、医師会活動を始めたばかりですので、今後のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

コロナ感染症、ウクライナ侵攻、世界情勢が不穏で、医療を取り巻く環境もめまぐるしい変化を見せ、今後の医療、介護、福祉が継続できるのか？様々な不安の中での、院長就任となりました。私としては、変わらず、目の前の患者さんに全力をつくしていきたいと思っています。

当院は、戦後に祖父が帰還し菅沼医院を立ち上げ、病院になってからは、45年以上にわたり、一貫して地域の皆様に信頼される医療機関となるべく「温もりとやすらぎのある医療を原点に、地域の皆様の幅広い御要望にお答えできる医療機関を目指す」という理念の下に、医療活動を行ってまいりました。江戸時代には、庄屋の傍ら、薬問屋を行い、明治になってからは郵便局もやっていたようです。以前から地域に根ざした存在であると考

えております。

現在では、急性期医療の後方支援として慢性期医療の医療療養病棟、在宅復帰を支援する地域包括ケア病棟を兼ね備えるとともに、介護医療院も有するケアミックス病院として機能し、日々精進いたしております。法人としましては、老人保健施設「千年の緑」も運営しており、医療と介護、在宅復帰まで幅広いミッションをもった病院であると認識しております。

日々の実感としましては、健康で動けるうちは、いくつもの専門科に受診できた患者さんたちが、急性期病院を経ても重症疾患をかかえたまま長期入院加療が必要な場合があります。高齢、老衰に近い状態になっていきますが、その線引きは容易なものではありません。当院でも医療区分の高い方に対し、十分な検査体制がとれないまま治療継続を余儀なくされる場合もあります。院長就任までは、急性期病院（飯田市立病院）に在籍し、お世話になりました。その際、私の専門である消化器内視鏡分野でも緊急内視鏡等が多く、急性期病院の大変さ、疲弊具合も感じる部分がありました。さりとて、慢性期病院で治療を継続、介護施設から

超高齢の方の入院加療、場合によっては、転院まもない患者さん家族に対し、ACP（Advance Care Planning）を進めていく困難さ大変さを感じる毎日であります。多くの多職種に支えられ、日々運営しております（病院紹介の動画もありますのでよかったですら見てください。<https://ms-kigyonavi.jp/co012/>）。

さて、長野県南部の高齢化率は全国平均より高く、人口自体は減少傾向にあります。しかし、飯田市においては、リニアの中間駅となる計画があり、今後、都市部から人口の流入も見込まれております。個人的には、都市部での介護困難になる方が多くなり、高齢人口の流入も増えていくのではないかと考えています。その中で、良質な医療・介護を提供する

ため、病院としては、地域の医療機関と連携し、柔軟に対応していく所存です。よろしくお願いいたします。

最後に当院副院長が子供の骨格に関する本を出版しました。当院は、子供から大人までリハビリに力をいれております。書店等で手に取っていただけると光栄です。



今後とも地域の皆さまの期待に応えられる医療介護活動を全力で展開してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。